

令和3年度学校自己評価システムシート (県立三郷高等学校)

目指す学校像	志と思いやりの心を育み、生徒一人一人の進路を実現する学校
--------	------------------------------

重点目標	1 集団の一員としての自覚と規律の確保 2 基礎学力とコミュニケーション能力の定着 3 キャリア教育を生かした志の育成 4 家庭・地域と連携した安心安全な教育環境の提供
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価		年度評価				
年度	目標	具体的方策	方策の評価指標			
1	<p>現状 遅刻は改善傾向にあり、継続指導中である。登下校時の交通マナー、公共施設の利用マナー等をはじめ、地域から改善を求める声がある。個別の課題を有する生徒に対する支援・指導に苦慮する場面がある。</p> <p>課題 基本的な生活習慣の定着を基礎とした心の安定を醸成し、規律ある学校生活の提供を通じて生徒の「志と思いやり」を効果的に育むことができる体制づくりが必要である。</p>	<p>○基本的な生活習慣及び社会規範の確立に向けた取組を通じて、社会性を身に付けさせるとともに、自他の安全に留意できる態度を育てる。</p> <p>○個別最適な学びと規律ある学校生活の提供を通じて、生徒に「志と思いやり」の心を育てる。</p>	<p>①登校・挨拶指導の実施、授業規律の確保(通年) ②月別統計調査の実施と校内への情報提供(毎月) ③自転車マナーアップ推進事業による講習会の実施(年2回) ④通学路安全点検の実施と危険箇所把握(8月)</p> <p>①遅刻者数の減少(前年度比) ②欠席者数の減少(学期比較) ③交通安全教室の実施(有無) ④調査結果の集約と報告(有無)</p> <p>①S.C.、多文化共生推進員の活用推進(通年) ②教育相談手法を用いた生徒指導実践校への視察(特別支援学校)及び事例報告(8月) ③全校集会等による説諭機会の創出(年5回) ④ICT活用による保護者連絡体制づくりの検討・試行(6月～9月)</p>	<p>①遅刻者数の減少(前年度比) ②欠席者数の減少(学期比較) ③交通安全教室の実施(有無) ④調査結果の集約と報告(有無)</p> <p>①スクールカウンセラー利用率は130%となり、多文化共生推進員の活用については、対象の生徒に対し計30回、必要な支援を行うことができた。 ②新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、残念ながら、実践校への視察は中止せざるを得なかった。 ③始業式、終業式等の式典、全校集会等において生徒指導部主任による講話を9回実施した。 ④学習支援ツール(Classi)を活用し保護者への一斉配信の体制を整備した。また学校閉庁日の緊急連絡先(スマホ携帯)を確保した。</p>	<p>①登校、挨拶指導の実施、全教員による授業規律の徹底により1日あたりの1クラスの遅刻者平均数が1.69人から1.35人に減少した。また、年間総遅刻者数は12%減少した。(昨年は長期の臨時休業のため一昨年度と比較) ②月別欠出統計の配布(教職員)によって学年・クラス等の現状や傾向を把握し改善を促した結果、年間総欠席者数が一昨年より17%減少した。(昨年は長期の臨時休業のため一昨年度と比較) ③交通安全教室(5月)、自転車安全講習会(10月)を実施した。 ④生徒指導部が中心となって通学路安全点検を実施し、危険箇所についての把握と集約および必要な報告を行った。</p>	<p>達成度 A</p> <p>次年度への課題と改善策 一昨年度と比較すると遅刻、欠席とともに大幅に改善したが、学校全体の出席率をさらに向上させるため、次年度は、今年度の取組と併せて、学年毎に目標値を掲げるとともに、生徒が毎日登校時間を厳守することができるよう、基本的な生活習慣を定着させるための具体的な取り組みを一層進める必要がある。</p>
2	<p>現状 教師の授業改善により生徒の学力は着実に向上している。良好な人間関係づくりに必要な資質能力を向上させるため、引き続き取組を継続中である。</p> <p>課題 基礎学力に基づく生徒の思考力、判断力、表現力を伸ばさせ、円滑なコミュニケーションスキルを身に付けさせるとともに「学び」に対する主体性を育む必要がある。</p>	<p>○主体的・対話的で深い学びの実践を通じて生徒の基礎学力の定着させるとともに「学び」に対する主体性や「志」を育てる</p> <p>○生徒のコミュニケーションスキル向上のための取組を通じて、自他を大切に思う心と態度を育てる</p>	<p>①学習時間の確保とマナトレ活用による家庭学習の支援(通年) ②新学習指導要領及び評価、ICT活用授業等の教員研修会の実施(10月) ③生徒による授業評価アンケートの実施(12月) ④ICTを活用した授業の推進(通年) ⑤Classi利活用に関するアンケートの実施</p> <p>①成績優良者数の増加、成績不振者の減少(前年度比) ②研修会の実施回数(回数) ③興味・関心に関する項目の割合増(前年度比) ④生徒・教員用タブレットの導入、ICT活用授業の実施頻度(前年比) ⑤アンケート結果の分析</p>	<p>①成績優良者数の増加、成績不振者の減少(前年度比) ②研修会の実施回数(回数) ③興味・関心に関する項目の割合増(前年度比) ④生徒・教員用タブレットの導入、ICT活用授業の実施頻度(前年比) ⑤アンケート結果の分析</p> <p>①学習支援ツール(Classi)による課題配信やマナトレの継続的な活用により家庭学習を支援したが、成績優良者・成績不振者は、昨年度と比較して、ほぼ横ばいであった。 ②新学習指導要領(10月)、観点別評価(8,9,10月)、ICT活用(5,8,9月)、教育DX(11月)等、教育課題に関する研修を年8回実施した。 ③「授業に満足している生徒」の割合73%、「学習を意欲的に取り組んでいる生徒」の割合71%となり、学習に対する生徒の意欲に向上がみられた。 ④生徒・教員用タブレットを10月に導入し、授業での活用を推進した結果、全授業の5割以上でICTを活用した教員の割合52%、前年と比較して授業でICTの利用機会が増えた教員の割合73%、ICTスキルが高まったと感じている教員の割合91%となり、多くの教員がICT活用スキルを向上させた。 ⑤Classi利活用に関するアンケートは実施できなかったものの、昨年と比較し学年統一による課題配信数が大幅に増加した。</p>	<p>達成度 A</p> <p>次年度への課題と改善策 1月までに英数国で計64回WEB課題を配信し家庭学習を促すことができた。全体の利用率は概ね4分の1程度であったが、意欲的な生徒を支援する環境は整いつつある。令和4年度入学生より年次進んで実現する生徒1人1台タブレット環境を見据え、次年度はさらにClassi等の活用を進める。 ICTを積極的に活用する教員が増加したこともあり、授業に対する生徒の満足度は高い値を示した。教員一人一人のさらなる授業改善のためにも次年度は個別の授業評価アンケートの実施を検討する。</p>	
3	<p>現状 3年間の進路指導が計画的かつ体系的に行われている。キャリア教育を生かし、進学及び就職の実績は高い水準である。</p> <p>課題 1年生時からの進路指導を充実させ、具体的な進路目標を持たせる。継続的な指導により進路決定率を高めていくことが課題である。</p>	<p>○体系的な進路指導を通じて、進学及び就職の実績を高めるとともに進路に対する「志」を育てる。</p> <p>○キャリア教育を充実し、進路決定率90%以上を達成する。</p>	<p>①3カ年進路指導計画の策定と学年差のない指導の実践(通年) ②H.P等を利用した進路情報の提供(通年) ③進学、就職実績(前年度比) ④新聞朝刊のクラス活用割合</p> <p>①模擬面接指導の外部講師活用(通年) ②希望進路実現に係るカウンセリングの実施(通年) ③進路指導部と各学年の緊密な連携体制の構築</p> <p>①模擬面接指導実績 ②カウンセリング実績 ③学校生活アンケートによる進路指導満足度(前年度比)</p>	<p>①進路指導の計画と実際の比較 ②進路行事後のアンケート満足度 ③進学、就職実績(前年度比) ④新聞朝刊のクラス活用割合</p> <p>①就職支援アドバイザー、外部講師の活用を含め、延べ248人に対し面接指導を行った。 ②生徒の希望進路実現のため、学期当初の2者面談、進路主事と3学年の情報交換(週1回)など、きめ細かい指導を実践した。 ③「進路行事・学習に対して満足している生徒」の割合92%と昨年同様、非常に高い値を示した。</p>	<p>達成度 A</p> <p>次年度への課題と改善策 今年度も組織的・計画的に進路学習を進め、昨年度と同等の高い水準で実績を得ることができたが、次年度は、Classiを活用するなどして、より個別最適な進路情報の提供と進路に対する生徒の主体性をさらに高めるための取組を推進する。</p> <p>本年度も就職支援アドバイザー、外部講師等を積極的に活用して、充実した進路指導を実施することができた。さらなるキャリア教育の充実のため、次年度以降も関係者との連携推進を継続していく。</p>	
4	<p>現状 新型コロナウイルス感染症によりPTA活動に大きな制約を余儀なくされたが、学校と保護者間で良好な関係は築けている。</p> <p>課題 本年度も新型コロナウイルス感染症に係る動向を見極めながら、連携方法について柔軟に対応する必要がある。また、本校の魅力を広く発信し、地域及び中学校の理解を深める必要がある。</p>	<p>○本校に対する保護者からの理解・協力体制を構築するとともに、地域連携を積極的に推進し、本校志願中学生を確保する。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止における安心・安全な教育環境を整える。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に資するPTA・後援会活動の運営 ②H.P活用した学校の魅力発信(通年) ③学校案内、三郷高校通信等の広報ツールの有効活用 ④中学校、地域要請の事業に対する協力 ⑤新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に資する学校説明会の方法検討と実施(年4回)</p> <p>①保護者の本校教育に対する理解度 ②H.P更新回数の増加(前年度比) ③学校案内、三高通信の配布先拡大 ④協力要請事業に対する協力実績 ⑤学校説明会参加率と志願者の増加(前年度比)</p> <p>①校内施設の感染防止対策状況 ②職員、生徒の感染防止に係る意識調査</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた行事の運営や感染対策物品の購入予算措置など、本年度も数多くの場面でPTA・後援会の御理解、御協力をいただいた。 ②H.P更新回数は昨年度比で140%増加した。 ③学校案内、三高通信等、生徒募集に係る資料を近隣地域に配布したが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況もあり、配布先の拡大には至らなかった。 ④三郷市50周年行事「スター採用2点、三郷市生涯学習部事業「マンガ感想文コンクール」171点応募、三郷市選挙管理委員「明るい選挙ボスター入選1点、学校施設開放等、地域の要望に積極的に応えた。 ⑤新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら学校説明会を4回行うとともに、新たにオンライン学校説明会を1回実施したが、志願者は伸び悩んだ。</p> <p>①非接触式サーモメジャー5台、二酸化炭素測定器16台を設置し設備の充実を図った。また、校内サーキットアップの振替えを行った。 ②放送部生徒による昼食時の校内放送、全教員による昼食指導、SHR時の担任による指導等を実施し、感染防止対策を徹底した。</p>	<p>達成度 B</p> <p>次年度への課題と改善策 本年度に引き続き、PTA・後援会の御理解、御協力をいただきながら、次年度も感染防止対策を講じたうえで、行事の運営等を進めていく。学校説明会については新型コロナウイルス感染症に伴い、オンライン(オンデマンド)説明会を行う等、工夫改善を図りながら実施したが、生徒募集状況は伸び悩んだ。次年度導入が決定している生徒1人1台タブレット環境の実現とICT活用を学校の魅力発信の原動力とし、「学校の広報」を最重要課題として位置付け、一層の改善を進める。 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策については、本年度さらに環境を整備することができた。次年度も継続して環境整備を推進する。</p>	

学校関係者評価	
実施日 令和4年3月2日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・日頃から授業規律を徹底され、挨拶をきちんと行う習慣を整えられている成果が、通学する生徒より伺える。</p> <p>・毎朝の登校・挨拶指導や全教員による授業規律の確保など、日常の継続的な取り組みが成果として良く表れている。また、月別欠出統計など、学校の現状を可視化し分析することは非常に有効な手段であるので、次年度も引き続き取り組んでほしい。</p> <p>・スクールカウンセラーや多文化共生推進員など、外部人材を積極的に活用して支援が必要な生徒一人ひとりに丁寧に対応されていることは大変評価できる。外部人材活用は有効な手段であるので次年度も引き続き取り組んでほしい。</p> <p>・学習支援ツールClassiを活用した家庭への一斉配信は、今後ますます重要になる。情報発信の際は、家庭での会話を深めるような工夫を加えると良い。</p>	
<p>・Classiやマナトレの継続的な活用については、令和3年度時点では成果が見えにくかったようだが、真面目に取り組んだ生徒にとっては必ず力になったのではないかと。令和4年度入学生からはじまる1人1台環境による新たな学びについても積極的にチャレンジし続けてほしい。</p> <p>・本校に通う中学生もマナトレを知っており、丁寧に取組まれていると感じる。</p> <p>・年間を通じて多岐にわたって教員研修を実施し研鑽を積み重ねている点は大変素晴らしい。また、ICT活用スキルに大幅な向上が見られたことから先生方の努力が良く伺える。授業と家庭学習のサイクルをICTの活用によって促進されることを期待する。</p> <p>・生徒のコミュニケーション能力育成プログラムや人権教室など、昨年実施できなかった特別授業も新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら良く実施した。また、その他の学校行事や部活動についても新たな方法や形式を採用するなど工夫が随所に見られた。</p>	
<p>・キャリア教育が意図的・系統的に充実していることが素晴らしい。アンケート結果で見える「意欲的に取り組んだ生徒」74%も見事である。</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大に伴う制約下においても、進学・就職実績ともに高い水準で維持した点は大きいと評価できる。また、すべての生徒の希望進路実現のために外部人材を有効活用しながら、面接指導を行うなど、一人ひとりを大切にしている指導を実践されている点についても同様に評価できる。</p> <p>・キャリア教育のさらなる充実とともに進路指導、学習を通じて、生徒の人間力を高められるよう、各種取り組みにさらに工夫改善を加えていってほしい。</p>	
<p>・学校が以前と比べて落ち着いてきたことが進学希望者の増加に繋がっているのではないかと。</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大に伴う制約下においても学校とPTA間で密に連絡を取り合いながら良好な関係が築けている。本年度も活動の制約が多く、学校の魅力を発信する機会に少なかったが、次年度は学校と協力して魅力発信のための活動にさらに積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>・非接触式サーモメジャーや二酸化炭素測定器をはじめ、感染防止対策に関する備品や設備等についても昨年以上に充実してきており、安心して子供を通わせられる。今後も引き続き子供たちのために安心安全な環境を提供してほしい。</p> <p>・H.P更新やオンライン説明会など、三郷高校の発信力が高まっていることは大変評価できる。</p>	